

同期「蕨テニスの会」に参加して

浅倉英樹(4組)

初夏の訪れを感じる4月26日(日)、好天のもと、同期「蕨テニスの会」が開かれました。

参加者は、コートの手配から、飲み物、お昼の用意まで面倒をみて下さった、地元蕨市テニス界の著名人、関賢治さん(2組)、千葉県稲毛から参加の牧野泰晴さん(1)、同様に遠くからは、藤沢からの内堀信さん(6)、高崎からの中山正光さん(11)、あとは地元近辺から、宮沢憲一さん(10)、原田義則さん(3)、若柳直人さん(4)と今回初参加の浅倉の8名でした。

何かと目立つ“自信家、中山さん”が最初の蕨駅待ち合わせから、ひとりだけ密かに“お姉ちゃんマーク”を出口方向の目印にしていたせいでしょうか？駅の逆方向に出てしまい、皆にやや遅れてテニスコートに現れました。

テニスは、11時から15時まで、ペアを変えたダブルスを4ゲーム先取のルールで、各人計7試合を楽しみました。成績は、5勝の関さんと若柳さんがトップと順調な結果でしたが、皆さん、個性豊かな60代のテニスをご披露されました。まずは、中山正光さん。特徴は、だれが見ても明らか、口先先行ですが、意外なほど立ち位置近辺でのテニスはラケット面がしっかりしており、特にバックは安定感ありです。残念ながら、それほど勝てないのは動けないからです。上半身テニスの限界でしょうか？勝率の良かった関賢治さんと若柳直人さんは、テニスのタイプが違います。関さんは、正統派でしっかりとしたフォームで、粗さが消えれば強そうです。これに対し、若柳さんは、いつの間にか勝ってしまうテニスで、かなり後位置からも正確なラケット面でのボレーが多いです。でも相手がうまければ、スマッシュを含む相手の攻撃の餌食になりそうです。ストロークは、腕の割に凄味が感じられませんが、痛めている腰のせいでしょうか？牧野さんのテニスは堅実です。ビックリするくらい安定したテニスで、皆さんの感想では、今なお少しずつ進歩を遂げているとのこと。内堀さんは、テニスを始めたのは40代から(?)とのことですが、テニススクールに少しばかり通った成果でしょうか？今日も、始めてから時間がたつにつれ、安定したサーブとバックのリターンで、豪快なイメージとはちょっと違ったテニスでした。宮沢さんは、ラケット面をしっかりとつくり、じっくりとボールを打点の寸前までよく見て打つ慎重なテニスです。課題は、立ち位置から離れたところにボールが来た時のストロークでしょうか？着実にボールに慣れ、進歩中という印象のテニスでした。原田さんは、調子が出てくるのに少し時間がかかったようですが、時に他のどの方よりも鮮やかなボレーを決め、少なくとも4回、素晴らしいボレーが決まりました。本人は、後衛でのストロークがいつもの本調子でなく、ご不満だったのでは？ストロークの回数が少なめだったのと、悪影響しかなさそうな中山さんの喋りの影響でしょうか？残る浅倉は36年ぶりのテニスで腰が安定せず、浮いたボールがまだまだ打てず、皆さんのレベルには程遠く全敗でした。

テニス後は、関さんのお世話で、2kmほど離れた銭湯“宝泉湯”に散歩しつつ行き、皆さんさっぱりとビールを美味しく飲める準備完了状態です。関さん行きつけの居酒屋“ひとひら”に場を変え、飲み会開始です。17時には飲み会参加の成澤文和さん(4)と上原昇さん(2)も交え歓談が始まりましたが、テニスの話題は、成績のせいでしょうか？一番口数が多いはずの中山さんが避けていました。お酒は、関さんがご提供くださった、話題の獺祭を皆で味わい、他にもあまり出会うことのない、長野県産のお酒に地ウイスキーが出てきて好評でした。

「蕨の会」や納涼会の話も出て、テニス、ゴルフに、飲み会と皆さんの今後のスケジュールを埋めそうな話を交わすうちに楽しい歓談も締めとなり、1本締めで散会となりました。

(2015年4月26日記)

【集合写真説明】

- ① 試合開始前
- ② 試合終了後
- ③ 居酒屋にて 左手前から宮沢、成澤、若柳、牧野、関、上原、内堀、浅倉、原田、中山



写真①



写真②



写真③